

○近藤 博議員 皆さん、おはようございます。創政会の近藤でございます。

発言通告に従いまして質問させていただきます。答弁のほど、よろしくお願いいたします。

2期目の市政運営についてです。

まず、1番目の市長の目指す今治の未来についてであります。

3月6日に徳永市長は、2期目の市長就任後最初の施政方針を演説されました。その内容は、1期目から一貫して掲げられてきた市民が真ん中という基本理念の下、全国の自治体に先駆けて「脱・衰退」を果たし、瀬戸内の世界都市として今治市を発展させるという、力強い未来像を提示するものであったと受け止めております。

加えて、市長がこの4年間における決意と覚悟が随所に感じられ、熱意あふれる所信表明でありました。

さて、全国でもまれに見る12市町村による大合併から、早いもので20年が経過いたしました。昨年1月から今治市内各所で多くの合併20周年記念事業が実施され、私も折に触れて参加させていただきましたが、どの催しも市民の皆さんが自発的かつ積極的に関わり、まさにここは市民が真ん中今治市だと感じられる、市民と共につくり上げた記念事業であったのではないかと思っております。

一方で、この記念事業の成果が一過性のものになっては、今治市の未来にとって大きな損失となります。記念事業のキャッチフレーズである「むすんだ絆、つながる未来」が示すように、市民の皆さんが築いた絆をさらに強固なものとし、次世代の子供たちに希望のある明るい今治市を引き継いでいくことが何よりも重要であります。

また、合併によって1つの家族になった今治市民が、どの地域に住んでいても同じサービスを受けられるまちをつくるのが、今治市政の重要な役割であると考えております。

これは、私の政治理念であると同時に、徳永市長が掲げる市民が真ん中の理念とも相重なるものがあります。

そのような考え方に立って、市長が常々おっしゃっている次の20年を見据えると、その新たなスタートとなるこの4年間こそが今治市の未来を左右する重要な分岐点になるのではないかと思っております。

徳永市長は、2期目の市政運営に当たって、「STAGE CHANGE」というスローガンを掲げられました。この言葉には、これまで築き上げてきた土台の上に、次なる成長と発展を目指し、今治市を新たなステージへと導くという決意が込められているものと理解しております。

そこでお伺いいたします。徳永市長が2期目の市政運営において目指そうとしている今治市の未来とはどのようなものなのかお伺いいたします。

次に、2番目の公約のうち特に注力したい取組についてであります。

市長は、未来への新しい風を確かなものにするための指針として、5つの政策戦略を掲げ、

それぞれの戦略の下で、より具体的な公約を示されています。いずれも今治市発展に欠かせない重要な施策であると認識しておりますが、特に市長が重点的に取り組まれようとする政策、あるいは今後の4年間で特に力を注いでいきたいと考えておられる施策についてお尋ねいたします。

以上2点でございます。

○越智 忍議長 答弁を求めます。

○徳永繁樹市長 今回の市議会議員選挙において、「がんばります、次世代のために」をキャッチフレーズに見事に当選され、合併前から通算しますと8期目を迎えられました近藤博議員の御質問に答弁させていただきます。

私の市長2期目の挑戦に当たり、近藤議員が所属されている創政会の皆様からも、様々な場面で温かく力強い御支援をいただきました。改めて深く感謝申し上げます。今回の御質問も、私の2期目にかける思い、決意を改めて問いかけ奮い立たせてくださるものであり、大変ありがたく存じております。

それでは、まず私の目指す今治の未来についてお答えさせていただきます。

今治市を変えたい、変えなければならないとの強い思いで、これまでの4年間、市政改革に全力で取り組んでまいりました。その結果、私たちのまち今治市は間違いなく、目指すべき方向に進み始めたと思っております。実際に、今治市内外の多くの方々から、今、今治市が変わり始めている、愛媛県内で最も勢いがあるのは今治市ではないか、そのような評価もいただけるようになってまいりました。

しかしながら、決して満足しているわけではありません。地方における人口減少の流れを根本的に変えるにはどうすればいいか、どのようにしたら地域が活性化しにぎわいを取り戻し、地域が発展するのか、こうした多くの自治体が抱える深刻な課題に対し、明確な答えをいまだはっきりとは見いだせていないからでございます。

私の目指す今治市の未来とは、市民が真ん中の理念の下、市民自らが自分たちのまちのことを自分事として考え、積極的にまちづくりに関わり、シビックプライドに満ちあふれた今治市をつくり上げ、その誇るべきふるさと今治を次の世代へ引き継ぐ、そうした流れがしっかりと確立されることであります。まさに、近藤議員の掲げた「がんばります、次世代のために」という思いを、市民の皆さんお一人お一人にお持ちいただき、それを市役所が補助エンジンとしてサポートしていくことが重要であると認識しております。現実を嘆いたり、今治市の未来を悲観したりするのではなく、今治市の多くの熱意あふれる市民の皆さんと共に、私たちにしかできない坂の上の雲を目指して、しっかりと前を見詰め、今治市の未来を切り開いていく、そのような覚悟でございます。

次に、お尋ねの2つ目、公約のうち特に注力したい取組であります。

議会開会日の施政方針で申し上げましたように、2期目のスローガンといたしまして「ST

AGE CHANGE」を掲げています。これまでの歩みを踏まえつつ、次なる成長と発展を目指し、新たなステージへと市政を前進させるという決意でもございます。

そして、具体的な公約は、「未来への「新しい風」5つの戦略」という形でお示しさせていただきました。考えに考え抜いて打ち出したこの5つの戦略には、今治市が今後も発展を続けるために必要と思われる政策を様々盛り込んでおり、そのどれもが注力したいこととございます。

一方で、これとは別の新たな切り口として、従来の縦割りの組織や事業の枠を飛び越えて横軸でくくるという発想を取り入れさせていただきました。それが、「壁の突破」「脱・衰退」「瀬戸内の世界都市」という3つの横軸的なテーマでございます。

今までなかなか実現ができなかった部局横断・連携強化型の政策展開を図り、未来への風をより確かなものにしたとの狙いがございまして、そういった意味におきまして、この3つのテーマが特に注力すべき課題ということになりましょう。

まずは、その1つ目、「壁の突破」についてでございます。

市民の皆様が直面する様々な壁を打ち破り、誰もが安心して住み続けることのできる環境を整えることであります。

例えば、子育て・教育の壁。中1の壁、そして小1の壁といった、子供の成長に応じて家庭や子供たちが直面する壁を突破するため、さらなる子育て環境の充実に取り組んでまいります。

また、お年を召された方々やハンデを抱える方々、外国人居住者の皆さんが感じる壁の解消も重要となります。地域の医療・福祉サービスを維持するため、医療・福祉人材の確保、定着に向けた支援を強化するとともに、多文化共生のまちづくりにも注力してまいります。

さらには、経済成長の壁を打ち破るため、AIなどの先端技術を積極的に取り入れ、地域産業の競争力を高めるとともに、今治あきない商社やせとうちみなとマルシェなど、この4年間で生み出し、そして成長してきた様々な成長エンジンの推進力をさらに加速させ、その成果を広い分野に波及させてまいります。

次に、2つ目は「脱・衰退」についてです。

人口減少に伴う地域活力や生活利便性の低下といった課題に対しては、特効薬はないと言われております。しかしながら、手をこまねているわけにはまいりません。その決意を「脱・衰退」という形で打ち出し、各部局の知恵と工夫を結集させて、あらゆる方策を効果的に講じていきたいと考えています。

具体的な事例を挙げますと、1つは人口回帰への挑戦です。今治市を一度離れた若者や女性の皆さんに、帰ってきたい、いつまでも関わり続けたいと思っていただけるよう、ふるさととしての魅力を高めるための施策を展開し、本市の人口を社会増に転換させたいと思います。

また、地域の衰退を防ぐため、時代のニーズに沿った公共交通の在り方を模索し、地域の足の確保対策にも注力してまいります。

さらに、しまなみ沿線住民約1万6,000人の皆様の期待にも応えたい。しまなみ海道実質無料化に向けまして、通行料の負担軽減のため、国や愛媛県に様々な提案をするとともに、できる部分から迅速に着手するとの考えの下、島嶼部の皆さんの生活環境の充実にも力を入れて取り組みます。

最後に、3つ目のテーマが「瀬戸内の世界都市」を目指すというものでございます。

本市はありがたいことに、世界に冠たる海事都市、世界に認められる品質の今治タオル、世界のサイクリストの聖地しまなみ海道、世界の舞台での戦いを目指すFC今治、そして「世界のタンゲ」丹下健三先生が描いたまちの姿や建築群、こうした世界に誇り得る地域資源が豊富にございます。この魅力をさらに磨き上げ、地域の発信力を強化することで、瀬戸内の世界都市としてのプレゼンスが揺るぎないものになるのではないかと考えています。

中でも、中心市街地の新たなまちづくりにつきましては、これまで何度も構想段階で頓挫した、ととても難しい事業でございます。しかしながら、人口が減り続けていく中で、今治市に活力が満ちている今だからこそ、着手しないと手後れとなるとの危機感を持って挑戦を続けてまいりたいと思います。

現在、整備計画が進んでいる今治版ネウボラの拠点施設に加え、海事都市今治未来基金を活用したMICE施設、築66年になる今治市役所の在り方検討、広小路や自転車空間の整備進捗といった様々な構想について、中心市街地グランドデザインとして市民の皆さんにもお示ししているところでございますが、今後は、こうしたものをたたき台として、これから50年、100年先を見据えた今治市のまちづくりに本格的に着手したいと考えています。

今申し上げた3つのテーマ、こうした取組を着実に実行していくためには、今治市役所のさらなる進化、つまるところ、職員の意識改革がマスト、必要不可欠であります。そのため、私は公約の中に、考えて行動するという意味を込めた「考動する市役所」を掲げています。市民の皆さんの声をしっかりと拾い上げ、自ら考え行動に移す今治市役所職員がさらに増えてくれることを大いに期待しています。

今の時代、現状維持は衰退を意味します。4年前、私は市長職に就くことを目的に市長を目指したではありません。今だから間に合うのではないか、こうした愛する方々がたくさんいるから、今だったら間に合うのではないか、私はそう思いました。愛する今治市をもっと輝かせたい、今治市の未来のために新しい風を吹き込ませたい、そうした思いを実現させるため、市政のかじ取りを目指したのでございます。

市長に就任させていただき4年が経過いたしました。市政改革の下地づくりは終わりました。これからがいよいよ本番です。次の4年間で今治市にとっての分水嶺、将来に禍根を残さないために今できることは勇気を持って挑戦していく、こうしたことを自らの肝に銘じ、市役所職員と共に、これからの市政改革に全力を尽くしてまいりたいと思います。

以上でございます。

○越智 忍議長 以上で答弁は終わりました。

再質疑、再質問はありませんか。

○近藤 博議員 議長。

○越智 忍議長 近藤博議員。

○近藤 博議員 大変細かい御答弁ありがとうございました。

そのうち、2番目の公約のうちの特に注力したい取組について再質問したいと思います。

2期目の市政運営にかける市長の強い決意と、今治市の未来に向けた明確なビジョンをお示しを十分いただきました。市民が真ん中の理念の下、まちづくりの主役である市民と共に、新たなステージへと歩みを進めるという方針は、私も大いに共感するところでございます。

その上で、市長が掲げられた「考動する市役所」に関してですが、市長は市民の声をしっかりと拾い上げ、考え行動に移す市役所へ進化していかなければならないと、こういうふうにおっしゃいました。これまでの4年間においても、市民が真ん中の市政を実現するため、市役所改革にはいろいろな手法で取り組んでこられたと思いますが、「考動する市役所」の実現に向けて、具体的にどのような手法で職員の意識改革を図り、市役所全体として、考え行動する組織への改革を進めていかれるのか再質問したいと思います。いかがでしょうか。

○徳永繁樹市長 近藤議員の再質問にお答えさせていただきます。

私は、4年前まで皆さんと同じ議員という身分でありました。地域の皆さんに、私のような者であっても活用いただける様々な声を託していただきました。その声を私が実現する力は、当時、当然ながら持っていません。そうした声を、理事者の皆さんとよりよい関係をつくり、そして徳永の声は地域の声だと信じていただいております。でも、そのお届けした声を実現するばかりではなくて、私が思っておりましたのは、同じような課題がほかの地域にもあるのではないかと思います。

愛媛県議会議員としての私の選挙区というのは今治市と上島町でありました。例えば、菊間で様々な御要望をいただいたときに、菊間の御要望は菊間の皆さんにお応えすることができたとしても、では玉川でどうなのか、島嶼部でどうなのか、私は、そういう目を持って様々なフィールドワークを重ねていたことを覚えています。その中には、失敗もたくさんあったと思うのです。

私は、4年前、今治市のかじ取り役を仰せつかったときに、市役所の皆さんに、失敗してもいいから、硬直する今治市役所の職員ではなくて、市民の皆さんの中に飛び込んでもらいたいというお話を繰り返しさせていただいたことを覚えています。考えて動く、「考動する市役所」とは、職員一人一人が、市民が真ん中という理念を自らの行動の指針とし、市民の皆さんの声に真摯に耳を傾けて、政策的な検討に加え、効果的な対応を打ち出すことができる、そんな市役所を意味しているものでございます。

先ほど、愛媛県議会議員のときのお話をさせていただきました。市長メールでもたくさん声

をいただいておりますけれども、例えば、道路際に雑草が生えているので何とかしてほしい、これまでは地域ボランティアとして何とか頑張ってきたのだけれども、私たちもよわいを重ねてきてもうすることができなくなったので何とかしてほしい、こんな声もたくさんあります。そうしたときに、私どもの職員が、それを忠実に実行するばかりではなくて、ほかにも同じような場所があるのではないか、予算確保の必要はないのか、例えば、通学路の安全管理について、管理方法を見直す必要があるのではないか、他の自治体においてはどんな取組をしているのか、そういったことをしっかり考え行動する職員が1人でも多くなることを願っています。

そのために、最優先で取り組むべきことの1つ目は、市役所の政策アンテナの機能の強化であると思っています。具体策としまして、市民が真ん中課にみらい地域共創係を新設させていただきたいと思っています。この組織が司令塔となり、大学や企業、市民との共創を牽引し、情報の集約、分析を通じて、効果的な発信や政策展開を図ってみたいと思います。

また、私どもの職員は、私は本当に優秀な方々が多いと思います。でも、一方で経験が不足している、様々な皆さんとの交渉が非常に苦手であるのかと思うところもあります。そうした方々を育てていかななくてはなりません。職員の政策力を高めるために、2年ほど前に私たちは株式会社SUNABACOの誘致をさせていただきました。この株式会社SUNABACOと連携し、職員の意識改革とDXを前進させるための課題解決力を養う「考動するDX人材育成研修」を実施し、デジタルツールを活用した新たな発想を生み出せる職員を養成したいと考えています。

さらに、現在でもそうではありますが、職員を、内閣府であったり、国土交通省の海事局、経済産業省、愛媛県庁などに派遣させていただいております。最新の政策動向や先進的な行政手法を学んでいただいて、そしてそれを今治市役所で生かしてもらおうなど、様々な人材育成プログラムも、これからも続けてやっていかななくてはなりません。

考動するための市役所の実現に向けましては、先ほど答弁申し上げましたように、縦割りの壁というものを突破していかななくてはなりません。皆さんにもお示しさせていただきますが、新年度には壁突破戦略本部を新設します。そして、部長経験者などを配置させていただいて、単独部局では対応しきれない地方創生、公有財産活用、多文化共生などの7つの分野において、これまでの慣例や固定観念にとらわれない新たな発想で部局を超えた取組を推進させていただきたい。

私は、4年前の市長就任時から機会があるごとに、職員の皆さんと分け隔てなく、市民が真ん中とはこういうことを意味するのだよというお話をしてまいりました。市長が真ん中ではない、部長が真ん中でもないですよ、皆さんが能動的に動いてもらいたいというお話を繰り返してまいりました。多くの変化は今感じておりますけれども、それに満足することなく、市民の皆さんに寄り添い、そして自ら考え迅速に行動し、誤りがあるのであるならばそれを探究し修正し、そして再度行動に起こす、そんな今治市役所の職員に少しでも近づけるよう、私も全

力で取り組みたいと思いますし、職員の皆さんに、議員の皆さんも、ぜひ御指導いただいたら非常にありがたいと思っております。

以上でございます。

○越智 忍議長 再質疑、再質問はありませんか。

○近藤 博議員 議長。

○越智 忍議長 近藤博議員。

○近藤 博議員 大変詳細にわたった御丁寧な答弁ありがとうございました。

以上で終わりたいと思います。ありがとうございました。

○壺内和彦議員 おはようございます。蒼光会、壺内です。通告に従い一般質問させていただきます。

私は、10代の頃より、まちなかの飲食店で働かせてもらい、いつかこの中心地で飲食店を営みたいと夢見て歩いてまいりました。そこには、今治大丸やショッパーズ、またたくさんの大型商業施設、多くの人々がにぎわう商店や小売業、アパレル業や飲食店など、商いのまちとしても魅力あふれる集いの場所でした。

30代に入り、小さな飲食店を営むようになりました。周りには、ホテルや本屋、ボウリング場など、活気にあふれていましたが、年を重ねるごとに1つまた1つと光を失っていき、気がつけばシャッター街と呼ばれるようになり、港は船を失い、まちは人を失い、若者は足を遠ざけるようになりました。

当時、タオル会館の一角に店舗を構えていましたが、解体のため立ち退きを余儀なくされ、悩んでいましたが、やはりこの中心市街地は今治市の顔であり、シンボルであってほしい、そういう思いの中、中心地に店舗を構えることを決断いたしました。

そのとき、今でもはっきり覚えているのですが、当時様々なまちおこし活動を行ってきたこともあり、銀行からは、一企業に融資するのではなく、まちを元気にしてくれる一まちおこし企業に融資しますと言ってくれたことは、うれしくもあり、また大きな使命感を感じました。

前段が長くなりましたが、中心市街地の活性化は、本市の未来にとっても大切なテーマであり、また私自身もイベントなどの活動を通じて様々な人と意見を交わしてまいりました。中心市街地は単なる商業エリアではなく、歴史や文化、人々の暮らしが根づく場所であり、今治市のまちの個性を象徴する重要なエリアです。ここが元気を取り戻し、新しい時代にふさわしい姿へと生まれ変わることは、市全体の発展にもつながると考えています。

かつてにぎわいに満ちていた中心市街地も、時代の変化に伴い、人々の暮らしや商業の形が変わる中、今でも活気を失いかけています。しかし、中心市街地が持つ可能性は決して小さくはありません。交通の結節点としての役割を果たし、公共施設や商業施設が集まるこのエリアが再び活気を取り戻せば、市民にとっても訪れる人々にとっても魅力的な場所になります。

そのためには、人が自然と集まり、活動し、楽しめるような空間をつくることが求められています。まさに、持続可能なまちづくりです。市長には、そうした視点の中、まちの未来を考えていただきたいと願っています。

その上で、次の点について質問いたします。

1 番目、中心市街地グランドデザインについてです。

本市では、中心市街地の将来の方向性を示すグランドデザインの策定が進められています。11月30日に行われた中心市街地まちづくり市民会議において、学生や市民団体の皆様が思いや願いを込め作られたグランドデザインマップに、とても感動いたしました。大きく7つに分け

た公共空間戦略、歴史や文化、若者目線を取り入れた巡回型市街地、素案とはいえ、この若者の考えに、見ているだけですごくわくわくさせていただきました。

やはり、中心市街地が再びにぎわいを取り戻すためには、新たな施設の整備だけではなく、商業や文化、交流の場を一体的に整え、魅力を高めていくことが必要です。特に、歩行者が回遊しやすいまちの仕組みを整え、地元の特色を生かしたまちづくりを進めることが最重要視されます。市民の意見の反映や主体的な参加はもちろん欠かせません。

このように、今治市が計画を立てるだけでなく、市民や地元事業者が積極的に関わり、自分たちのまちをよりよくする意識を高めることで、長く愛されるまちが生まれると考えています。

市長は今後、どのように市民参画を促し、中心市街地グランドデザインを進めていくのかお聞かせください。

次に、2番目、シビックゾーンの再編についてです。

シビックゾーンの再編は、行政機能の効率化だけではなく、まちの活性化という点でも重要な取組です。前述述べたように、市民会議においても、利便性の向上が課題として挙げられています。

今後の整備計画が注目されています。公共施設の老朽化が進む中、5年、10年先に建て替えが必要であれば、今後の人口減少を視野に、複合化、縮小化させ、コストや人件費の削減も必要とされます。また、今治市外、愛媛県外が憧れ、足を運ぶようなユニバーサルデザインを取り入れ、市民が気軽に利用できる、開かれた空間であることが求められます。

今後の市役所やネウボラ拠点施設などの公共施設には、市民交流の場としての機能を持たせ、周辺の商業施設や交通網と調和するような配置を考えることで、より多くの人を訪れるエリアになると考えます。

また、公共施設の集約や再配置に当たっては、行政サービスの向上だけではなく、ソフト面の充実、まちの回遊性やにぎわいの創出につながるような仕組みが必要です。単に施設を再編するのではなく、点を線、線を面に変えていき、市民の暮らしや地域の発展にどう貢献できるかが重要ポイントと考えております。

そこで、市長は、利用しやすく、まちの魅力の向上にもつながるようなシビックゾーンの再編をどのようにお考えかお聞かせください。

○越智 忍議長 答弁を求めます。

○徳永繁樹市長 壺内議員の中心市街地のまちづくりに関する御質問にお答えさせていただきます。

現在、今治市の中心市街地の各所で、壺内議員をはじめとする市民の皆さんが、新たなにぎわいを生み出すために懸命に活動いただいております。様々な地域活動やイベントなどを通して、変化を恐れず、むしろ求めながら挑戦し、地域に新しい風を吹き込んでいただいている姿に、私はいつも今治市の明るい未来を感じ、大変ありがたく、心強く思っております。

私が10代の頃、港町今治の市街地は活気に満ちあふれていました。港には次々とフェリーが到着し、そこから波のように人々が商店街に流れ、どの店先においても笑顔で言葉を交わし、お土産や荷物を手にした人々が乗船する、そのような姿が日常でありました。夜にはネオンサインが彩りを添え、おいしいお食事や買物を楽しめる、そんな特別な場所だったことを今でも鮮明に覚えています。

しかし、時代の流れとともに、その風景は大きく変化してまいりました。今治港の乗降客数は昭和49年の約300万人をピークに徐々に減り始め、しまなみ海道全線開通を契機に激減、現在はピーク時の30分の1、10万人を切る状況となっています。そのような今治港ではありますが、3年前に開港100周年を迎え、交通の港から交流の港へという新たな目標を掲げ、市民の皆さんと共に様々な挑戦を始めています。

私は、これからの今治市の発展の鍵となるのは今治港をはじめとする中心市街地の再生であると考えており、合併20周年を契機に改めて、本市の歴史や文化、地域の魅力、基幹産業の強みなどを見詰め直し、多くの気づきや学びをいただきながら、未来のまちづくりの羅針盤となる中心市街地グランドデザインの策定を進めています。

このグランドデザインのコンセプトは「つながる みなと・まち・いまばり」でございます。具体的には、今治市らしい中心市街地の再生、公共施設の再編、既存ストックの活用による都市の魅力創出、地域文化を生かした観光・交流の場の創出など、6つの柱で構成されています。

また、策定に際しましては、行政主導ではなくて、市民の皆さん自らが主体的にまちづくりに関わっていただけるよう、様々な方々の声を丁寧に拾い上げ、将来ビジョンとしてまとめるなど、ボトムアップ型の検討手法を取り入れることで、市民の皆さんの納得と共感を得ながら議論を進めるような工夫もしております。

既に中心市街地の各所で今治市の魅力を引き出す様々な動きが始まっていることは壺内議員も御案内のとおりだと思います。

港エリアではせとうちみなとマルシェがスタートし、今治港を舞台とする様々なイベントを開催することで、少しずつではありますが、港がにぎわいの場になりつつあります。

港から市役所を経てJR今治駅まで続く広小路エリアも、新たな道路空間、にぎわい空間の整備検討が始まっています。

また、中心市街地にある公共施設を再編整備することによるまちの魅力の向上、さらには徒歩や自転車、次世代モビリティなどを使ってまちなかの回遊性を高める検討も進められています。

本市は、多様なコンテンツを有したポテンシャルの高い地方都市として、多くの方々から注目をいただいています。しかし、私は、まちというものは人の思いが織りなすものであり、市民の皆さんの思い以上のまちをつくることはできないのではないかと、だからこそ、私たちはどういった今治市を次の世代に託していくのかということを実際に議論し、このまちの未来をし

っかりと描いていかなければならないと思うのであります。

まさに今からが、未来を切り開く、大切なときとなります。市民の皆さんを巻き込み、市民の皆さんと議論を重ね、今治市をさらに輝かせ、魅力的なまちへと進化させるため、覚悟を持ってまちづくりに取り組んでまいりたい、私はこのように思っています。

次に、お尋ねの2つ目、シビックゾーンの再編についてお答えさせていただきます。

今治市の中心市街地のうち、国、愛媛県、今治市などの公共施設が集積するシビックゾーンにつきましては、市民の皆さんの活動や行政サービスの利便性を向上させ、より使いやすい魅力的なエリアとしての再編整備が必要であると考えています。

4年前、私は、今治版ネウボラの推進を公約の目玉に掲げ、子育て世代や子育て支援機関の皆さんをはじめ、多くの方々との直接対話を通じて、昨年5月に今治版ネウボラ拠点施設整備基本計画を策定させていただきました。その基本計画におきましては、整備場所は、現在の中央公民館、日吉公園及び旧日吉小学校の一部を想定するとともに、機能につきましては、子育て世代活動支援センター、児童センター、保健センターといった子育て支援拠点機能に加え、地域交流センターとしての現在の中央公民館の代替機能を合わせて一体的に整備する案も提示させていただいております。

一方で、昨年11月に開催した中心市街地まちづくり市民会議において、先ほどもお話しさせていただきましたが、中心市街地グランドデザインの素案として、市民の皆さんに将来ビジョンをお示しさせていただきました。現在、最終のまちづくり基本計画として取りまとめを進めている段階でございますが、その中で、中心市街地のにぎわいと交流を生み出すリーディングプロジェクトとしてネウボラ拠点施設を位置づけるとともに、その近隣地域には、既に本館が築66年となっている今治市庁舎を、愛媛県と今治市の複合庁舎として移転整備することも案の一つとして提示させていただいているところでございます。

こうした状況の中、昨年秋、もう一つの新たなファクターが加わってまいりました。それがMICE施設の整備であります。MICEとは、会議やコンベンション、展示会、イベントなどを開催できる施設のことです。

昨年9月に、海事関係企業の皆様から、MICE施設や今治港周辺整備についての御要望をいただくとともに、御寄附もいただいております。現在、その寄附金を海事都市今治未来基金として積み立てをいたしておりますが、今後、仮に基金を活用してバリシップなどが開催できるようなMICE施設を今治市内中心部に整備するとした場合には、どの場所にどのような規模や機能のものを造るのか、管理運営はどうするのかといった点について、産業界をはじめとする様々な皆さんの御意見もしっかりとお聞きしながら検討を進めることが必要となります。

このように、シビックゾーンの再編については多くの提案があり、不確定な要素も多数ございます。改めて整理させていただきますと、ネウボラの子育て支援拠点機能、中央公民館の地域交流センター機能、市役所を核とした複合庁舎機能、MICE機能などでございますが、こ

れら様々な施設計画や構想がある中で、いかにして機能を重複することなく効果的、段階的に整備していくのか、お互いの施設の相乗効果を発揮できるようにするにはどうしたらいいのか、既存施設の利活用はできないかといった検討が必要であり、シビックゾーン整備を進めるに当たっての極めて重要な課題となっております。

そうした中で、私としては、「脱・衰退」への第一歩として、4年前から申し上げているように、子育てするなら今治市と言っていただけるよう、誰もが安心して楽しく子育てができる理想郷を具現化するランドマークとして、また中高生の居場所や子供たちの活動拠点として、ネウボラ拠点施設の整備を最優先に進め、一刻も早い供用開始を目指したいと思っています。

ただし、併せて整備を検討していた地域交流センター機能のうちホール機能などにつきましては、今後具体的な検討に入るMICE機能との機能的な関連性が高いため、この際、ネウボラ拠点施設からは切り離し、MICE施設と一体的に整備することも含めて検討していきたいと考えています。

また、仮にMICE施設を整備する場合、地場産業振興センターの会議室やホール機能、周辺の宿泊機能など、既存の施設を可能な限り活用することが効果的であるとも考えられますことから、新年度に設置予定のMICE機能整備検討委員会において急ぎ検討いただき、他の施設との機能調整を図ってまいりたいと考えております。

まちづくりとは、未来をどうするのかという問いに、壺内議員や、そして私を含め、今を生きる私たちが答えを出すことでございます。今後、市街地での様々な社会実験や各種事業の実施に当たっても、市民の皆さんや関係団体の皆さんとの意見交換を丁寧に積み重ね、グランドデザインの具体化を進めることで、まちの彩りを取り戻した今治市らしい中心市街地の再生を、さらには瀬戸内の世界都市にふさわしいまちの創造を、皆さんと共に実現してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○越智 忍議長 以上で答弁は終わりました。

再質疑、再質問はありませんか。

○壺内和彦議員 議長。

○越智 忍議長 壺内和彦議員。

○壺内和彦議員 先日、せとうちみなとマルシェにおいても合併20周年のグランドフィナーレが行われました。本当にたくさんの方が訪れ、笑顔でマルシェ自体を楽しんでいたのではないのかと考えております。

先ほど市長がおっしゃったように、市民の底力というのは本当にすごいと感じます。実際、毎回朝早くからお手伝いしていただいているマルシェの実行委員会の皆様であったり、出演、出店、そして来場していただける市民の皆様、そしてバックで支えてくださる行政の方々には、改めて感謝を申し上げたいと思います。

官民融合だからこそ、こういったマルシェを軸に市民のアイデアがたくさん集約し、そしてランドデザインができていくのかと感じております。市民の思い、願い、希望をしっかりと具現化していただいて、次世代への新しいかけ橋を、シビックゾーンをしっかりと進めていただけたらありがたいと思います。

また、ネウボラ拠点施設の整備について、市民の声をしっかりと反映させていただいているというのはとてもありがたく、そして私自身もしっかり理解させていただいております。

子育て世帯、いろいろな場所に移動するに当たっても、子供を抱えて車で移動する、その大変さというのは多く声を聞いております。それが1つの集約になることによって、さらに使いやすい環境に変わっていくのかと思っております。

また、先ほどMICEのお話も上がりました。海運関係企業様からの寄附は大変本当にありがたく、また業界の方々の思いや願いの強さを改めて強く感じました。

確かに、ホール機能の重複であったり場所であったりというのは物すごく重要課題になり、悩ましい部分になるかと思えます。理事者には、そこをしっかりと調整していただいて、複数の分科会ができるスペースが今治市にはありません、そういった設備の調整であったり、また日本一の海事都市今治のシンボルとしても、ぜひこの事業を進めていただくことを願っております。

これからも、市民共同参画の下、コンパクトシティの実現、そして未来をつくる今治市独自のスタイルの実現に向けて期待を込めまして、私の質問を終わります。

○平田秀夫議員 共生クラブの平田です。通告に従いまして質問を行います。

徳永市長は、就任以来一貫して傾聴と市民参画を掲げ、就任直後に、世界を震撼させた新型コロナウイルス感染症蔓延の危機を、持ち前のリーダーシップを発揮し乗り越えられ、その後は今治のまちに元気と明るさを取り戻すため、懸命に市政に取り組みられてこられました。

チャレンジ精神旺盛な徳永市長の下、市民が真ん中の理念に基づき、今治版ネウボラの推進、今治あきない商社の設立、せとうちみなどマルシェ、中心市街地のまちづくりなど、新たな取組も着実に実を結びつつある状況であると、一市民として大変心強く思っているところであります。

本市は平成17年1月16日に、全国で3番目に多い規模である12市町村が合併し誕生しました。この平成の大合併は、人口減少や少子高齢化などの社会情勢の変化や行政基盤の安定を目的として、平成11年から平成22年にかけて全国的に推進されてきたわけですが、市議会といたしましても、合併によるスケールメリットを最大限に生かし、地域の諸課題の解決に向け、市民の皆様や市職員と一丸となって積極的に取り組んでいるところでございます。

このような中、本市は今年1月16日に、めでたく合併20周年を迎えることができました。昨年1月に開催された今治市合併20周年記念事業オープニングイベントを皮切りに、先日開催されましたグランドフィナーレまで、約1年をかけて数多くの合併20周年記念事業を企画、実施されてきました。

私の地元の波方で開催された2024波方産業文化祭では、波方地域の発掘隊によりおむすびの具材として取り上げられた波方みそが大人気で早々に完売し、合併20周年を機に、初めての試みとして、ステージを野外に移して実施した開会式やダンス、カラオケ大会など、会場全体が一体となり、フィナーレの餅まきには本当にたくさんの方が集まってこられて、大盛況で終わることができました。また、大角海浜公園におきましても、河津桜まつりに合わせて、初めてライトアップが実現され、そのライトアップは、伯方、上浦、大三島、吉海、宮窪、関前へとバトンがつながり、地域のつながりが感じられる事業となりました。

とりわけ、記念事業の柱として実施された今治みらい発掘プロジェクト12は、今回の事業が、単なるイベントの積み重ねではなく、市民が自分事としてふるさと今治について考えるために、積極的に参画した事業であったという、そんな印象を与えてくれました。

総じて、約1年というロングランの合併20周年記念事業では、市民自らが自分事として、愛着を持ってふるさと今治を見詰め直す機会となり、とりわけ記念式典において発掘隊により披露された「ふるさと」の大合唱は私も大変感動しましたが、人と人とのつながりから生まれる地域間の交流をはじめとする地域活性化への機運醸成が図られたものと推察されます。

そこでお尋ねいたします。「むすぶ」をテーマに、官民一丸となり取り組まれた今治市合併20周年記念事業の総括をお聞かせください。

以上です。

○越智 忍議長 答弁を求めます。

○徳永繁樹市長 平田議員御質問の合併20周年記念事業の総括についてお答えさせていただきます。

平成の大合併により、12の市町村それぞれの人や自然、歴史、文化、産業などのすばらしい地域資源が1つにまとまったことで、大きな可能性が生まれました。加えて、今治市に移住された方々、戻ってきてくださった方々が、地域に新しい風を吹き込んでいただいているおかげで、魅力ある、活力あるまちになりつつあると思っています。

一方で、私は、加速度的に進む人口減少、少子高齢化の波に押され、世代を超えた地域のつながりが希薄となりつつある現状を憂慮していたことから、合併して20年の節目を迎えるに当たって、いま一度ふるさと今治のあるべき姿を市民の皆さんと共に考え、改めて地域の絆を取り戻し、12の地域が強く結ばれた大今治家を築き上げたい、そんな思いで合併20周年の記念事業に取り組ませていただきました。

振り返れば、昨年1月28日のオープニングイベントを皮切りに、今治みらい発掘プロジェクト12の活動がスタートし、また地域での地域行事や関連イベント、10月の市民がさんかくおむすび交流会、本年1月18日の合併20周年記念式典など、150以上の関連事業が実施され、参加者も延べ55万人を超えるという非常に大がかりな取組となりました。平田議員にもお越しいただいた3月9日のグランドフィナーレも盛会裏に終了、これをもちまして、20周年記念事業は一応の区切りを迎えています。

全国トップクラスの12の市町村が大合併した今治市にふさわしい取組にしたいとの思いで、この1年間、他の自治体では類を見ない、名実ともに日本一、市民が真ん中の合併記念事業になったと思っています。

この合併記念事業は特に、地域の絆を強化したい、新しい魅力を発掘したい、未来の今治市を担う人たちを見つけないといったことを目指して多種多様な事業を展開しましたことから、担当職員も大変だったろうと思います。しかし、本当によく頑張ってくれました。

また、魅力発掘隊員の皆さんをはじめ、様々な場面で御協力いただいた関係各位、御参加いただいた多くの市民の皆さん、御協賛いただいた皆さん、そして平田議員をはじめ、事業実施に御尽力いただき、いつも表の舞台でも裏の舞台でもエールを送り続けていただいた議員の皆さんにも、心から御礼を申し上げる次第でございます。

何げない景色を残したい、何げない魅力を残したい、20年先も輝き続ける今治市であるために、「むすんだ絆、つながる未来」を合い言葉に、12の家族が1つになって取り組んできた記念事業の実施によって、人と人、地域と地域のつながりが一層強固になりました。

また、今治みらい発掘プロジェクト12で提案された地域の魅力発見かるた、地域の魅力がところ狭しと描かれたポスターも出来上がり、お披露目をさせていただきました。

さらには、発掘隊員が発案した12の地域の特別な食材を使ったおむすび、例えば、平田議員

御地元の波方みそときな粉のおむすび、吉海西屋の焼き豚マヨネーズおむすびが完成するなど、地域資源に新たな魅力も加わりました。

私の大好きな菊間のいりこ飯も、多くの市民の皆さんに顕在化されて、そしてこれからのコンテンツに育とうとなっています。

こうしたことを契機に、今、それぞれの地域で様々な化学反応が起こりつつあり、各地で地域活性化のための新たな息吹が感じられるようになってまいりました。

私は、これこそが合併20周年記念事業の最大の成果ではないかと思っています。

そして、もう一つの大きな成果は、今治みらい発掘プロジェクトを担ってくれた隊員の皆さんの成長です。これからの今治市を担う若者世代を中心に構成されました154名のメンバーは、この1年間、全員が目を見せながら能動的に地域に分け入り、今治市の未知なる可能性を見いだしてくれました。そして、発見、共有、創造の3つのステップで精力的に議論を重ね、その活動の成果を「今治みらい予想図」として描いてくださいました。発掘隊員の皆さんには、今後は「みらい予想図」の実現に向け、大いに活躍していただけるものと期待しているところでございます。

さらに、もう一つうれしい波及効果がありました。発掘隊員よりもさらに若い、未来を担う子供たちの活動です。3月の広報いまばりの表紙を飾ってくれている別宮小学校6年生の皆さんが、学校の総合的な学習の時間に今治市の魅力を発見するという取組を進め、郷土を愛する思いがぎゅっと詰まった「ぼくらのふるさと」という歌をつくり、そのユーチューブ映像を世界に発信してくれています。本当にすばらしい曲、すばらしい映像です。先日のグランドフィナーレのステージにおきましても、多くの市民の皆さんの前で披露されましたので、お聞きになった方もおられるかと存じます。この歌をステージで力強く歌ってくれていた子供たちの目も、発掘隊員と同じようにきらきらと光り輝き、涙が出るほど感動的な場面でありました。

このように、合併20周年プロジェクトに込めた思いは、地域や世代を超えて広がりを見せています。まさにここからが始まりです。これからも、多くの市民の皆さんと共に未来志向で、今治市の魅力を磨き上げ、記念事業で結んだ絆を未来へとしっかりとつないでいくことをお誓い申し上げ、合併20周年記念事業の総括とさせていただきます。

○越智 忍議長 以上で答弁は終わりました。

再質疑、再質問はありませんか。

○平田秀夫議員 議長。

○越智 忍議長 平田秀夫議員。

○平田秀夫議員 御答弁ありがとうございました。

徳永市長は施政方針でも触れられておりましたが、合併20周年記念事業を通じて、次の20年に向けた地域の絆が確かなものになり、それを担う人材も育ってきているということですが、私も同じように感じております。特に、今治みらい発掘プロジェクト12の活動に参加した発掘

隊員は、地域を超え、交流するなど、今までにないコミュニティーを形成し、素晴らしい成果を収められています。グランドフィナーレで子供たちの合唱による「ぼくらのふるさと」を聞かせていただきました。本当に素晴らしい曲だったと思います。たくさんの方が口ずさんでくれることを心より願っています。

今後も、合併20周年記念事業の取組により掘り起こされた地域資源や人々との絆を大切にしていって、周辺地域も含めた今治のまちが輝き続けることができるよう、2期目の市政のかじ取りに大いに期待して私の質問を終わります。